5　アルコール			
目標項目：５－１　多量に飲酒する人の減少			
目標値 （平成 22 年度）	ベースライン値 （H12 県民健康栄養調査）	中間評価 （H17 県民健康調査）	直近値 （H22 県民健康・栄養調査）
男性　　７%以下	１２．５%	１０．５%	４．９%
女性　０．３%以下	０．５%	０．９%	１．１%
直近実績値に係るデータ分析 （直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析）	○男性では，平成 12 年から平成 22 年までに有意に減少した（片側 P 値<0.001）。 ○女性では，有意な変化はなかった（片側 P 値=0.116）。		
データ分析上の課題 （調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載）	○平成 17 年の調査は，仙台市を除く地域で実施した調査である。		
その他データ分析に係るコメント	○男性は，30 歳代を除く全年代で，平成 12 年より 22 年の多量飲酒者の割合が低い。 ○女性は，30～60 歳代で，平成 12 年より平成 22 年の多量飲酒者の割合が高い。		
最終評価及びコメント	○男性の多量飲酒者は減少し，女性は変わらない	評価 男性Ａ　女性Ｃ	
今後の課題及び対策の抽出 （最終評価を踏まえ，今後強化・改善等すべきポイント）	○男性の多量飲酒者の割合は減っているが，女性は変わらないことから，女性をターゲットにした多量飲酒のリスクや，適正飲酒の普及などを行っていく必要がある。		

5　アルコール			
目標項目：５－２　未成年者の飲酒の減少			
目標値	ベースライン値 （平成８年度未成年者の飲酒行動に関する全国調査）	中間評価 （平成16年度未成年者の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査）	直近値 （平成22年度厚生労働科学研究大井田班）
未成年者の飲酒の減少０％	男性（中学３年）26.0% 男性（高校３年）53.1% 女性（中学３年）16.9% 女性（高校３年）36.1%	１６．７％ ３８．４％ １４．７％ ３２．０％	８．０％ ２１．０％ ９．１％ １８．５％
直近実績値に係るデータ分析 （直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析）	○男性（中学３年）では有意に減少した（片側Ｐ値＜0.001）。 ○男性（高校３年）では有意に減少した（片側Ｐ値＜0.001）。 ○女性（中学３年）では有意に減少した（片側Ｐ値＜0.001）。 ○女性（高校３年）では有意に減少した（片側Ｐ値＜0.001）。		
データ分析上の課題 （調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載）	○宮城県内の結果については把握しておらず，全国調査の結果である。		
その他データ分析に係るコメント			
最終評価及びコメント	○全国値は改善したが，宮城県の状況が把握できないため，評価できない	評価 Ｅ	
今後の課題及び対策の抽出 （最終評価を踏まえ，今後強化・改善等すべきポイント）	○県内の状況が把握できておらず，目標として推進していくには，現状の把握に基づく効果的な取組みの検討が不可欠である。		

5　アルコール			
目標項目：５－３　「節度ある適度な飲酒」を知っている人の増加			
目標値	ベースライン値 （Ｈ１２県民健康栄養調査）	中間評価 （H17 県民健康調査）	直近値 （H22 県民健康・栄養調査）
成人　１００％	３８．４％	３９．１％	４２．４％
直近実績値に係るデータ分析 （直近実績値がベースライン値に対してどのような動きになっているか分析）	○平成 12 年から 22 年までに有意に増加した（片側 P 値=0.005）。		
データ分析上の課題 （調査分析をする上での課題や留意点がある場合に記載）	○「節度ある適度な飲酒」とは，日本酒に換算して１日１合程度（１日に純アルコールで 20ｇ程度）と定義。 ○平成 17 年の調査は，仙台市を除く地域で行った調査である。		
その他データ分析に係るコメント	○男女別にみると，女性のほうがやや知識が高い（平成 22 年結果：男性 39.9%，女性 44.9%）。		
最終評価及びコメント	○改善した		評価 B
今後の課題及び対策の抽出 （最終評価を踏まえ，今後強化・改善等すべきポイント）	○改善傾向にあるものの，現状と目標に大きな差があるため，目標達成のためには，今後更なる啓発活動が必要である。 ○「節度ある適度な飲酒」を普及する際，より理解が得られやすく覚えやすいようなキャッチフレーズなどが必要である。		